

佐賀駅のコンコースで佐賀大学をPRする学生たち。収穫した農産物などの販売が好評だ



# 佐大ステーション

## 佐賀駅(イベント) 農産物を販売

と売切れてしまった。佐賀駅のコンコースは、人の行き交いも多く、高校生や県内の人だけでなく、旅行かばんを抱えた人や黒いスーツを着た男女など、出張できたような人々も多く、やはり佐賀駅は、佐賀の玄関口と思わせる風景だった。

この中、学生たちはコンコースに響き渡る声で呼び込みを行い、足を止めた方々と自分たちの作品や野菜について話をしていった。お客さんたちも学生たちといっしょで関心を示し、気軽に寄ってきていた。その中で、昨春まで佐大に子どもがいたという福岡の女性は記念にとミカンを買っていき、仕事で来たという島根県の神職の男性は、木工の学生の作品に興味を示していた。

大学の広報に学生たちは一役も二役も貢献している。現在流れているテレビコマーシャルも学生たちが授業で制作したものだ。テーマの「のどがなくせに国際派」も学生たちが決めたものだが、私はとても気に入っている。

(佐賀大学理事・北島悦子)

【今回は29日付で掲載します】

「のどがなくせに国際派」と書かれた旗の下、佐大の学生たちと職員が、毎月第三水、木曜日の午後四時から七時まで佐賀駅コンコースでイベントを行っている。

ここで好評なのが、佐大フィールドセンターで収穫した無農薬、無化学肥料の農産物の販売。十二月、私も参加した。この日は水菜、キャベツ、白菜、ニンジン、サツマイモ、里芋、ミカンを売ったが、サツマイモ

は大人気、すぐに売り切れてしまった。ミカンを食べてみたが、見かけは少々悪いが、味は抜群で、甘いだけではなく、少々酸味もある懐かしい味だった。野菜は、毎回完売するという。

この日は、美術工芸課程の木工芸研究室の学生たちの作品も即売したが、今年の千支のネズミや、キリン、カバ、恐竜など、デザインのよさと価格の安さが魅力。千支のネズミは早々